揖斐郡教育研修センター通信　第10号　R4.9.8

郡読書感想文コンクール特集

９月５日に「揖斐郡読書感想文審査会」が行われ、令和４年度の揖斐郡読書感想文コンクールの特選、入選、佳作の作品と県読書感想文コンクールへの出品作品が決定しました。

（１）令和４年度揖斐郡読書感想文コンクールの応募状況

- 令和４年度揖斐郡読書感想文コンクールへの総応募点数は２，２３３点でした。
- 各部門（小低・小中・小高・中学）の全児童生徒数に対する出品率はどの部門でもほぼ４５％でしたが、小学校低学年は３８％とやや低めでした。
- 自由図書と課題図書の比率は
  小低　７０％：３０％　　小中　７１％：２９％　　小高　７６％：２４％
  中学　９４％：　６％　と年代が上がるにつれて自由図書の比率が高くなっています。

	小学校・低学年の部（１・２年）		小学校・中学年の部（３・４年）		小学校・高学年の部（５・６年）		中学校の部（１～３年）	
	自由図書	課題図書	自由図書	課題図書	自由図書	課題図書	自由図書	課題図書
応募点数	２６９	１１２	３５３	１４３	３９２	１２７	７８６	５１
	３８１		４９６		５１９		８３７	
応募率	３８％		４５％		４５％		４５％	

（２）郡読書感想文コンクール入賞状況

	郡への出品数	出品率	特選	入選	佳作
小学校・低　自由	21	12%	0	9	12
小学校・低　課題	24		3	4	17
小学校・中　自由	19	6.3%	2	4	13
小学校・中　課題	12		1	3	8
小学校・高　自由	23	7.3%	1	5	17
小学校・高　課題	15		2	7	6
中学校	65	5.5%	3	16	46

- 部門別の総取組数に対する郡への出品数は６～７％前後となっています。（総取組数の少なかった関係で小・低は出品率がやや高くなっています）
- 特選の作品が県の読書感想文コンクールへの出品作品となります。県への出品数は郡の総出品数に対する比率で決まっているため、令和４年度の郡総応募数２，２３３点に対しては１２点となり、各部門ごとに３点ずつを県へ出品します。（※自由・課題の割合制限はありません）
- 郡への出品作品のうち、各部門ごとに特選３点、入選３割程度となっています。
- 特選の作品を令和４年度揖斐郡読書感想文集に掲載します。また感想文集に掲載された児童・生徒のうち、承諾が得られた作品を揖斐郡教育研修センターのホームページへの掲載予定です。

令和4年度揖斐郡読書感想文コンクール　講評

【小学校・低学年の部】

- 低学年らしい感動や発見、気づきが素直な表現で書かれており、どの作品からも本に対して興味をもって読み進めていることや読後の思いがつたわってきました。
- 内容から離れすぎずに自分の考えや思いを書いていくことはとても難しいと思いますが、保護者の方の指導や指導された先生方が、指導されていることもよくわかりました。
- 特選として選ばれた作品は、その子なりの独特の感性や気づきがダイナミックに表現されていたり、ていねいに思いをつづったりすることができていました。

- だれにでも書けるものではない「自分らしい文章」が思い切って書けるように指導していけるとよいのではないかと思いました。
- 子どもらしい素直な感想や、自分の身の回りの家族のことが温かく書かれていてよかったです。低学年では使わないような言葉や表現よりも、子どもの心の声そのままの表現が大切だと感じました。
- 全体的にやや字が乱雑な印象を受けたので、各校で指導していく必要があると思いました。
- 各地区でしっかりと審査が行われていて、その感想文も読みやすく、レベルの高いものが多かったです。そのため、賞を決める時に少し迷いました。
- あらすじにならないように意識している児童が多く、逆に本の内容に対する記述が少ないものもありました。意見文のようにならないように本の内容と自分の体験や感想のバランスをとることが大切だと思います。
- 小・低では特選として選ばれたものがすべて課題図書の感想文でした。自由図書の場合、選書も大切だと感じました。

【小学校・中学年の部】

- ジェンダー、SDGｓ、公害、戦争、ウイルスなど社会に広く目を向けた感想文がありました。
- 経験や体験、家族とのつながりについて本とつなげて書けている感想文がありました。
- 文字数の規定近くまで書くとより自分の思いが伝えやすいと思います。また文章を読み返して誤字・脱字を防ぎたいと思いました。

【小学校・高学年の部】

- テーマのはっきりしている作品が多く、伝えたいことがよくわかりました。同じ内容の繰り返しになっている作品が一部あったので、伝えたいことをはっきりさせて書くとよいと思います。
- 改行などの体裁が整っていないものもあったので、表記についても気をつけるとよいと思いました。
- 本を読むことで子どもたちが身の回りの社会的事象や課題をとらえなおしたり、考えなおしたりする機会になっていることに改めて気づかされました。ただ感動しただけではなく、日常に還元していく動機の一つになればと思いました。
- 原稿用紙の使い方やボキャブラリーについて気になる点が何回かあったため、指導する必要があると思いました。
- 子どもが今問題になっていることや自分の家族、仲間等様々なところに目を向けて感想文を書いているのに驚きました。子どもたちなりに考え、どうするとよいかと行動する様子が浮かび、うれしい気持ちでした。

- 課題として文章を書くことに慣れていない子が増えているのかなと感じたので、自分も学校に帰り、更なる指導に努めたいと思いました。

【中学校の部】

- 感動した点を素直な言葉で書き綴ってある作文が多かったです。学んだことや考えたことが素直に語られていて、読書をとても楽しんでいる様子が伝わってきてよかったです。
- 主人公の言動や課題を自分の体験にひきつけて一歩踏み込んで熟考し、論がまとめられるとさらに訴える力のある作文になると思いました。
- 文書のスタイルが整っており、前書き、心に残ったこと、最後のまとめというように読みやすく分かりやすい文章になっています。
- 心に残った言葉を的確に捉え、それに対する自分なりの所感が簡潔にまとめられていました。
- あらすじを追う部分が長いので、ポイントのみにまとめ、特に自分の心にヒットした部分に焦点をあてて掘り下げると文章に深みが出て、全体として読ませる文章になると思います。そのため特に心に残った言葉を取り上げ、既読の本や自分自身の体験に照らし合わせて、具体的に表記すると良いと思います。
- 様々なジャンルの小説があってとても面白く読むことができました。本を読んで自分の体験を書いていく中で、自分の失敗や後悔と向き合い、本をきっかけに自身を変えていこうとする前向きな姿に感動しました。
- 自分の体験ではなくあらすじを中心に書いてしまっている作品もあったので、本を読んで自分を振り返り、自分を見つめていく感想文がもっと増えるとよいろ思いました。
- 小説に限らず様々なジャンルの感想文があり、本に親しむ下地があると感じました。分野にとらわれず、これからも様々な本に親しんでいってほしいです。
- 自らの実体験と読書体験を結びつけ、自らの生き方を考えることができている人がおり、よかったです。いくつか本のあらすじを追っているものがあったのが残念でしたが、今後も本に親しんでいってほしいです。
- 本の内容に自分自身の実体験や考えなどを反映させて書かれており、学校での指導もしっかりなされているのだなと感じました。

- 全体的に課題図書で書かれている作品が少なく、課題図書を読むことに抵抗があるのかなと感じました。また自由図書では映画になったものの原作を読んだ感想文が多いように感じました。タイトルなどを知っていたり、聞いたことがある本は手に取りやすく、身近に感じているのだなと感じました。
- 進路選択や自分の長所に悩む様子などを素直に打ちあけ、本から学べたことが書かれていたものがありました。成長し、視野が広がってくると自分だけでなく、友達、家庭、家族、学校生活、外での人間関係など悩みの幅も広がってきます。それを改めて見つめ直し、先人の知恵や考えから学ぼうとしていました。
- 入選に選ばれた作品には書き出しに工夫が見られ、引き込まれていく文体でした。また自分の考えが、あらすじに紛れることなく書かれていて、本を読むことで世界が広がった様子で、読書の効果が感じられました。
- 本を選ぶところから読書感想文は始まっているので、自分の興味や経験にあった本選びができると書きやすくなると思います。